

7月4日

テーマ：「主を待ち望む」

聖書箇所：イザヤ書40章31節

◆今日のみことば

しかし、主を待ち望む者は新しく力を得、鷲のように翼をかって上ることができる。
走ってもたゆまず、歩いても疲れない。 イザヤ書40章31節

◆メッセージ

鷲という名前を聞いて何を思い浮かべますか？プロ野球の東北楽天イーグルスやJリーグのベガルタ仙台の Mascot になっているイヌワシのキャラクターは可愛らしいのですが、そもそもは力強い鳥です。ローマ時代などはその強く、美しい姿から王家の紋章や部族のシンボルにされてきました。



しかし、イスラエルの国はそのような鷲の力強さとはかけ離れた状態にあったのです。イザヤさんの時代、その不信仰のゆえにイスラエルは南北に分裂し、国が滅びていく、そのような厳しい時代でした。しかし、この章では「慰めよ、慰めよ」と始まっています。その苦しみの中にある人々に、神さまが慰めと希望を語ってくださいました。国を失い、他の国へ移されていく人々がどのように力を得ることができるのでしょうか。それが、鷲のように。

そのために必要なのは「主を待ち望む」こと。これまでのイスラエルは自分たちの力や他の国々の助けを受けて戦ってきました。そうではなくて、「主を待ち望む」こと、神さまを信頼して求め神さまのなさることを待つこと。ここで「新しく力を得」というのは、今ある力に他の力がプラスされるということではありません。全く異なる力という意味です。そしてそれは、神さまとしっかりと繋がる中でいただくことができるのです。小さな鳥が自分の力でパタパタと羽を一生懸命にはばたかせ上っていくようにではなく、鷲が上昇気流に身を任せて、ピンと張って、上へ上へと上っていくように、自由でおおらかな力です。私たちも主を待ち望み、その信仰によって歩むならば、大変な試練の中でも、上へ、主の力によって上り続けることができるのです。



どんな時でも共におられる主を待ち望み、自分の力や他の人の助けではなく、主の与えてくださる力によって歩んでいきましょう。

◆お祈り

「自分の力や目に見える助けではなく、いつでも私たちを助けようと、恵もうとされている主に頼ることができますように。日々与えられる新しい力の中で歩ませてください。」

(衣笠中央キリスト教会牧師 三浦峰人)